
平成 29 年度 第 1 回岩手県大規模事業評価専門委員会

日 時 平成 29 年 6 月 19 日 (月) 13:30~16:00

場 所 岩手県庁 12 階 特別会議室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

佐々木専門委員長

3 議 事

(1) 平成 29 年度専門委員会の開催スケジュール等について

(2) 大規模公共事業の再評価について

・閉伊川 総合流域防災事業<諮問審議>

・宮古西道路 地域連携道路整備事業 (ネットワーク形成型) <諮問審議>

(3) その他

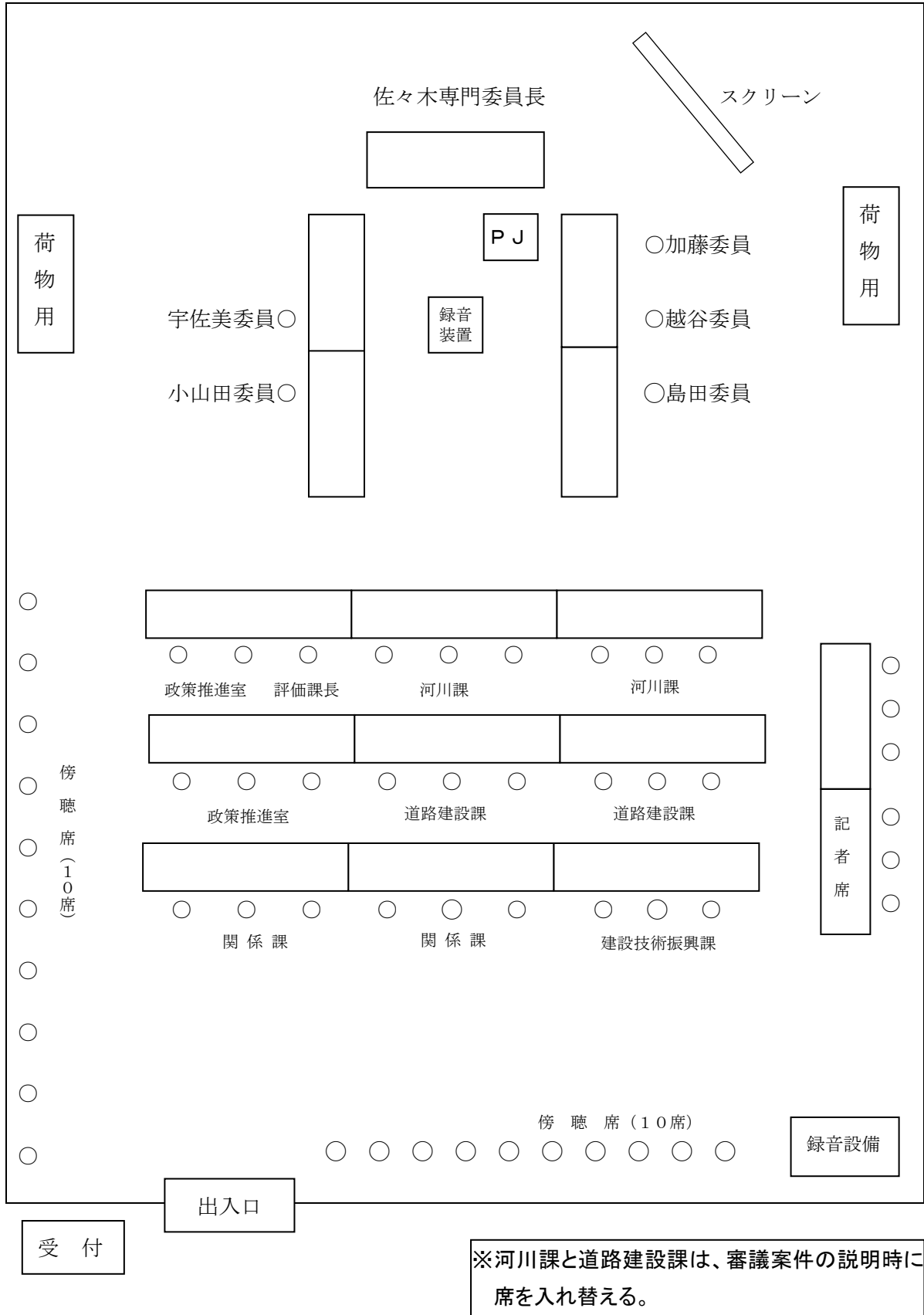
・現地調査行程 (案) について

4 閉 会

平成 29 年度第 1 回岩手県大規模事業評価専門委員会座席表

日 時：平成 29 年 6 月 19 日（月）13：30～16：00

場 所：岩手県庁 12 階 特別会議室



岩手県大規模事業評価専門委員会委員名簿(五十音順)

氏 名	職	専門分野	備 考
秋 山 信 愛	税理士法人秋山会計事務所 所長 公認会計士・税理士	企業会計	今回欠席
宇佐美 誠 史	岩手県立大学総合政策学部 講師	交通工学 国土計画	
小山田 サナエ	のぞみ設計室 代表	建築学	
加 藤 徹	宮城大学 名誉教授	農業土木 農村計画	
河 野 達 仁	東北大学大学院情報科学研究科 教授	費用便益分析 交通・都市計画	今回欠席
越 谷 信	岩手大学理工学部 教授	地質学	
佐々木 幹 夫	八戸工業大学大学院 教授	水工学	
島 田 直 明	岩手県立大学総合政策学部 准教授	植生学 環境生態学	

(敬称略)

平成 29 年度第 1 回大規模事業評価専門委員会
配付資料一覧

- 資料 No. 1 平成 29 年度大規模事業評価専門委員会の開催スケジュール
 - 資料 No. 2 大規模事業再評価諮問書（写）
 - 資料 No. 3 閉伊川総合流域防災事業 再評価関係資料
 - 資料 No. 4 宮古西道路地域連携道路整備事業（ネットワーク形成型）
再評価関係資料
 - 資料 No. 5 平成 29 年度大規模事業再評価地区 位置図
 - 資料 No. 6 平成 29 年度大規模事業評価専門委員会 現地調査行程（案）
-

平成 29 年度大規模事業評価専門委員会の開催スケジュール（案）

1. 審議案件（予定）【6件】

- ① 公共関与型産業廃棄物最終処分場整備事業【環境生活部】
（施設 事前評価・基本設計後）＜八幡平市＞
- ② みたけ学園・みたけの園整備事業【保健福祉部】
（施設 事前評価・基本設計後）＜盛岡市・滝沢市＞
- ③ 岩手県立福岡工業高等学校改築事業【教育委員会事務局】
（施設 事前評価・基本設計後）＜二戸市＞
- ④ 閉伊川総合流域防災事業【県土整備部】
（公共 再々評価）＜宮古市＞
- ⑤ 宮古西道路地域連携道路整備事業【県土整備部】
（公共 随時再評価）＜宮古市＞
- ⑥ 岩崎川広域河川改修事業【県土整備部】
（公共 随時再評価）＜紫波町・矢巾町＞

※事前評価や随時再評価の必要が生じた事業があった場合には、上記案件以外にも審議をお願いすることがあります。

2. 報告案件（予定）【0件】

今年度 大規模事業評価の事後評価案件はありません。

3. 年間スケジュール（予定）

時 期	専門委員会等の内容	再評価/ 随時 再評価 (審議)	事前評価 (審議)	事後評価等 (報告)	備 考
6/19 (月)	第1回専門委員会 (審議)	○		—	再評価/随時再評価諮問審議 パブリックコメントの実施
7/18 (火)	第2回専門委員会 (現地調査)	○		—	継続審議
8/7 (月)	第3回専門委員会 (審議)	○		—	継続審議
9/15 (金)	第4回専門委員会 (審議)	○		—	再評価/随時再評価答申案の審議
10/30 (月)	第5回専門委員会 (審議)	○	○	—	事前評価諮問審議 随時再評価諮問審議 パブリックコメントの実施
11/14 (火)	第6回専門委員会 (現地調査)	○	○	—	継続審議
12/12 (火)	第7回専門委員会 (審議)	○	○	—	継続審議
1/15 (月)	第8回専門委員会 (審議)	○	○	—	事前評価答申案の審議 随時再評価答申案の審議
2月	第9回専門委員会 (審議)			—	H30年度 スケジュール等

※現時点での予定であり、審議等の進捗状況に応じて、審議回数は増減する場合があります。

大規模事業再評価諮問書(写)



政 推 第 79 号

平成 29 年 6 月 7 日

岩手県政策評価委員会

委員長 西出 順郎 様

岩手県知事 達 増 拓 也



大規模事業評価について（諮問）

政策等の評価に関する条例（平成 15 年岩手県条例第 60 号）第 10 条第 1 項の規定に基づき、別紙の大規模公共事業に係る再評価について意見を聴きたいので、評価調書を付して諮問します。

(別紙)

大規模事業評価対象事業一覧表

1 大規模公共事業再評価

番号	担当部名 担当課名	事業名	市町村名	事業計画			再評価 の要件
				着手 年度	完了 予定 年度	総事業費 (百万円)	
1	県土整備部 河川課	閉伊川総合流域防災事業	宮古市	S39	H37	5,730	③
2	県土整備部 道路建設課	宮古西道路地域連携道路整備事業 (ネットワーク形成型)	宮古市	H15	H30	21,700	⑥

※再評価の要件：

- ① 事業に着手した年度から起算して5年度内に未着工の事業
- ② 事業に着手した年度から起算して10年度内に完了が見込まれない事業
- ③ 再評価を行った年度の翌年度から起算して5年度又は10年度内に完了する見込みがない事業（再々評価、再々々評価）
- ④ 事業の準備又は実施計画に係る調査に要する費用が予算に計上された年度から起算して5年度内に事業に着手する見込みがない事業（地域高規格道路及びダム事業に限る）
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、事業計画の重要な変更等により、再評価を実施する必要があると判断した事業（随時再評価）
- ⑥ 国の補助に係る事業の評価に関して国から別に指針等が示された場合で、当該指針等に従って評価を実施する必要があると判断した事業（随時再評価）

閉伊川 総合流域防災事業
再評価関係資料

- 1 大規模公共事業 再評価の概要
- 2 大規模公共事業 再評価調書 等

岩手県 県土整備部

大規模公共事業再評価調書の概要

へいがわ (閉伊川総合流域防災事業)

担当部課：県土整備部河川課

- 1 事業概要** (河川名：二級河川閉伊川水系閉伊川、近内川、山口川 所在市町村：宮古市)
 - 事業目的： 近内川・山口川は、断面が狭小で治水安全度が低いため、大雨のときには氾濫の恐れが高く、平成 11 年 7 月豪雨では、家屋や農地等の浸水被害が発生しており、本事業により断面の拡大を図り、沿川の浸水被害を軽減することにより、安全で安心できる地域づくりに寄与するものである。
 - 事業内容：延長 L=6,475m (閉伊川 L=1,000m、近内川 L=3,700m、山口川 L=1,775m)
築堤 L=1,800m、掘削 V=223,800m³、護岸 A=41,200m²
 - 事業期間：昭和 39 年度 ～ 平成 37 年度 (前回評価時：平成 37 年度)
 - 総事業費：5,730 百万円 (前回評価時：5,730 百万円)
(平成 28 年度までの投資額 3,754.0 百万円、進捗率 65.5%)
- 2 事業の進捗状況等**
 - 当事業は、閉伊川河口部より上流へ向け改修を実施し、昭和 45 年度までに閉伊川工区を暫定完了した。同年度から閉伊川支川の山口川・近内川の改修に着手している。
 - 山口川については、平成 2 年度まで河川改修を行い、橋梁を含む未改修区間約 400mを除いて、改修済みである。
 - 近内川については、上流域に土地区画整理事業を実施中であり、河川用地の確保や残土の流用など連携をとりながら事業を進めている。現在、閉伊川合流部から約 3.2km の位置まで改修が進んでおり、平成 11 年豪雨の際も、改修済み区間においては安全に洪水を流下することができた。
 - 当面、流下能力が低く近年浸水被害に見舞われている近内川上流部の整備を急ぎ、その完成後に山口川の流下能力が不足している区間に着手することとしている。
- 3 社会経済情勢等の変化**
 - 近内川については、平成 11 年に上流の未改修区間で溢水氾濫により浸水被害が発生したことから、地元から事業促進について強い要望がある。さらに、近内川沿川は区画整理事業や小規模開発による宅地化が進んでおり、河川と一体となって整備を進める必要がある。
 - さらに、東日本大震災以降、安全な津波浸水区域外に宅地を求める市民が増加しており、近内川沿川の区画整理事業においても、宅地の需要が増加しており、当事業を着実に推進し、安全で安心な地域づくりを進める必要がある。
 - ソフト対策として、県では洪水浸水想定区域を公表しており、市では洪水ハザードマップを公表している。
- 4 コスト縮減対策及び代替案**
 - 河川改修により発生する掘削土砂を、付近の土地区画整理事業等に有効利用することにより残土処理費を低減し、コストの縮減を図っている。
 - 遊水地やダム建設、放水路等との組み合わせによる手法が考えられるが、流域の地形、土地利用状況、社会的・自然的影響を総合的に勘案し、河川改修による治水対策が妥当と判断した。
- 5 総合評価**
 - 近内川沿川では、近年、土地区画整理事業などにより市街化が進んでいること、また、上流部の河道の流下能力が低く、近年においても家屋や農地等への浸水被害が生じていることから、河川改修により浸水被害の軽減を図る必要がある。
 - 山口川では、宮古市街地において断面が狭小な区間があることから、橋梁部の架け替えなどを進めていく必要がある。
 - 「事業の進捗状況等」や「社会経済情勢等の変化」に関して大きな変化がないことから、総合評価を「事業継続」とする。

大規模公共事業 再評価調書

平成29年5月12日作成

事業名	総合流域防災事業（河川）	(補助)・単独	担当部課名	県土整備部河川課					
路線名等	二級河川閉伊川水系閉伊川 ^{へいがわ}	地区名	-	市町村 宮古市					
事業概要	〔事業根拠法令等： 河川法第10条 〕								
	(1) 事業目的 ○解決すべき課題 ・沿川には、三陸沿岸の拠点である宮古市街地が広がっているほか、国道45号、106号、JR山田線及び三陸鉄道など交通網が密集する沿岸地域の要衝となっている。 ・閉伊川の支川近内川沿川では、近年、近内地区土地区画整理事業等の宅地開発が行われている。 ・本流域は、昭和22年、23年のカスリン、アイオン両台風によりいたる箇所で大きな被害を受けたほか、近年でも平成11年7月の豪雨により近内地区において家屋や農地等の浸水被害が発生している。 ・以上のことから、閉伊川本川およびその支川である山口川・近内川の築堤や断面拡大を図り、沿川の浸水被害を軽減して、安全で安心のできる地域づくりに寄与するものである。 ○整備により得られる効果 ・河川改修を行うことにより、50年に1度の確率による降雨で発生すると考えられる洪水被害の軽減を図ることができる。								
	(2) 事業内容 延長 L=6,475m（閉伊川L=1,000m、近内川L=3,700m、山口川L=1,775m） 築堤 L=1,800m、掘削 V=223,800m ³ 、護岸 A=41,200m ²								
	(3) 整備目標等 治水安全度：[閉伊川]1/100、 [近内川、山口川]1/ 50 [治水基準点：宮古市千徳]								
事業着手	S39年度	事業計画期間	S39 ~ H37 (H37) 今回評価時全体計画期間 (H35) 前回評価時全体計画期間 (当初全体計画期間)	用地着手 S42年度 工事着手 S43年度					
事業費	当初計画総事業費 (S39年) (うち用地費)	前回評価時総事業費 (H24年) (うち用地費)	今回評価時総事業費 (H29年) A (うち用地費)	事業費の状況 [百万円]					
				S39年～ B H27年		C H28年	D H29年	投資事業費 E = B+C+D	進捗率 F = E/A
	980.0 (310.0)	5,730.0 (748.0)	5,730.0 (748.0)	3,704.0 (696.6)	50.0 (0.0)	0.0 (0.0)	3,754.0 (696.6)	国庫 1877 県 1,877.0	65.5
事業の進捗状況等	(1) 事業の進捗状況								
	ア 整備効果の発現状況								
	当事業は、閉伊川河口部より上流に向けて改修を実施している。昭和45年度までに閉伊川工区を完了し、同年度から閉伊川支川の子口川・近内川の改修に着手している。 山口川については、平成2年度まで河川改修を行い、橋梁を含む未改修区間約400mを除いて改修済みである。 近内川については、上流部で土地区画整理事業が実施中であり、河川用地の確保や残土の流用など連携をとりながら事業を進めている。現在、閉伊川合流部から約3.2kmの位置まで改修が進んでおり、平成11年豪雨の際も、改修済み区間においては安全に洪水を流下させることができ、改修済み区間においては浸水被害は特に発生しなかった。 当面、流下能力が低く平成11年豪雨により浸水被害に見舞われている近内川上流部の整備を急ぎ、その完成後に山口川の流下能力が不足している区間に着手することとしている。								
	イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し 工事遅延等なし。 ※中項目評価は、事業の進捗が順調であり、計画どおり確実な竣工が見込まれることから「a」とした。 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">中項目評価 a . b . c</div>								
(2) 事業計画の変更の有無及び内容									
前回評価時と事業計画変更なし。 ※中項目評価は、事業計画に変更ないことから「a」とした。 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">中項目評価 a . b . c</div>									
※中項目評価が「a」、「a」であることから、大項目評価は「AA」とした。 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">評価 AA . A . B . C</div>									

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

・平成23年3月11日の東日本大震災による津波や、平成27年9月の関東・東北豪雨、平成28年8月の岩手県岩泉町などを襲った台風10号に見られるように、自然災害により尊い人命や家屋等の財産が甚大な被害を受けている。このようなことから、着実にハード整備を進めるとともに、水位情報の周知やハザードマップの作成等、ソフト対策の充実などにより、流域住民の水防災意識の構築に努めている。

イ 本県内の状況

・平成23年3月11日の東日本大震災による津波により、沿岸域で6千名弱の死者・行方不明者など、甚大な被害を被っている。また、平成28年8月の小本川(岩泉町)などの洪水や、平成25年7月の砂鉄川(一関市)、8月の岩崎川(矢巾町)及び雫石川(雫石町)、9月の松川(盛岡市)及び馬淵川(二戸市)等の洪水など、各地で大規模な浸水被害が各地で発生していることから、河川・海岸など防災事業に対する関心度が依然として高まっており、効果的な事業の進捗に努める必要がある。

・県では、近年洪水被害が発生した河川等について重点的な整備を進めている。当面の整備目標は、過去の被災流量相当の洪水による家屋被害を軽減することとし、段階的整備により治水安全度の向上を図ることとしている。

・ハード対策とともにソフト対策として、住民の迅速かつ円滑な避難を促進し尊い人命を守るため、水位計や監視カメラの設置、ホームページや携帯電話による洪水情報の提供、水位周知河川の指定、浸水想定区域図の作成、市町村のハザードマップの作成支援を行っている。

ウ 施工地域における状況

・宮古市を貫流している閉伊川、その支川の山口川・近内川が氾濫すると市中心部の住宅地・商業地等に浸水被害を及ぼすため、地元からも早期完成を望まれている。さらに、東日本大震災津波以降、安全な津波浸水区域外に宅地を求める市民が増加しており、近内川沿川の区画整理事業においても、宅地の需要が増加しており、当事業を着実に推進し、安全で安心な地域づくりを進めることが必要である。

・県では、洪水に対する意識を高めていくため、平成17年度に浸水想定区域図を作成・公表しており、平成20年度には「宮古市総合防災マップ」として、閉伊川を含む市街域においては100年に1回程度の大雨により河川が氾濫した場合のハザードマップを作成・公表している。

※中項目評価は、全国または本県において、河川改修事業のあり方についての議論や見直しの検討はないことから「a」とした。

中項目評価	a	b	c
-------	---	---	---

(2) 事業に関する評価指標の推移

評価指標		配点	事業着手時評点 S39	前回評価時評点 (A) H24	今回評価時評点 (B) H29	増減 (B)-(A)	備考
必要性	想定氾濫被害額	15	15 (72,022百万円)	15 (107,438百万円)	15 (114,462百万円)	0	※1
	防護人口	5	5 (6.2千人)	5 (8.4千人)	5 (6.2千人)	0	
	公共施設・弱者施設	5	5 (あり)	5 (あり)	5 (あり)	0	山口小学校
	輸送施設	5	5 (あり)	5 (あり)	5 (あり)	0	国道106号、JR山田線、三陸鉄道北リアス線
重要性	総合計画上の位置付け	5	5 (あり)	5 (あり)	5 (あり)	0	
緊急性	過去10年間の水害被害実績	5	3 (207百万円)	0 (0百万円)	0 (0百万円)	0	
	過去10年間の被災回数	3	3 (3回)	0 (0回)	0 (0回)	0	
	他事業関連の有無	5	5 (あり)	5 (あり)	5 (あり)	0	区画整理事業 道路改良事業
	流下能力比	2	2 (50%未満)	2 (50%未満)	2 (50%未満)	0	
効率性	費用便益比 (B/C)	40	40 (60.8)	40 (61.7)	40 (52.5)	0	※2
熟度	地元の要望	5	5 (あり)	5 (あり)	5 (あり)	0	
	地元の協力	5	0 (なし)	5 (あり)	5 (あり)	0	
計		100	93	92	92	0	(今回評価時/前回評価時) 100%

※1 想定氾濫被害額が増加した理由:浸水氾濫区域内の家屋評価額の増による。

※2 B/Cが減少した理由:主に基準年の変更に伴う現在価値化後の建設費の増による。

○ 費用便益分析

費用便益分析手法:治水経済調査マニュアル(案)平成17年4月 国土交通省河川局 (単位:百万円)

区 分		事業着手時 (基準年:昭和39年度)	前回評価時 (基準年:平成23年度)	今回評価時 (基準年:平成28年度)	備考
費用項目	①建設費	384	16,694	20,906	※1
	②維持管理費	49	161	1,584	※2
	③総費用(C) ①+②	432	16,855	22,491	
便益項目	④被害軽減の便益	26,291	1,039,297	1,179,800	※3
	⑤残存価値	4	18	18	
	⑥総便益(B) ④+⑤	26,295	1,039,315	1,179,818	
費用便益比(B/C) ⑥/③		60.8	61.7	52.5	

※1 「建設費」の増は現在価値化による。(全体事業費の増分はない。)

※2 「維持管理費」増は河道掘削や立ち木伐採などの計画的な維持管理費を見込んだことによる。

※3 「被害軽減の便益」の増は家屋評価額の増による。

○ 関連する開発プロジェクト等の状況

- ・近内地区土地区画整理事業(平成元年度～平成34年度 A=32.9ha) 進捗率約90%(H29年度)
区画整理事業と連携し、河川用地の多くは換地により確保している。
- ・長根岩船線道路改良事業(平成13年度～平成30年度 L=1,400m)

※中項目評価は、各評価指標の評点が前回評価時の90%以上であるため「a」とした。

中項目評価 a . b . c

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・岩手県自然環境保全指針による保全区分 D
- ・希少野生動植物生息の有無 あり
- ・埋蔵文化財包蔵地の有無 あり
- ・その他特記事項

岩手県教育委員会との協議及び現地調査を実施しながら事業を進めている。

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

- ・振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況 付議している

①主な助言内容

植生: 在来種による緑化を図ること。

魚類: 生息空間の確保に努めること。

②主な対応状況

・植生については、在来種の植生可能な護岸ブロックにより施工するとともに、ブロック中詰土及び覆土に現場発生土を利用し、植生の効果が徐々に現れている。

- ・魚類については、^{みおすじ}滞筋に変化をつけるなどの工夫をしている。

《その他の環境配慮に要する事業費等》

- ・護岸工、緩傾斜落差工整備 C=約349百万円

※中項目評価は、自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全方向に沿った対応をしていることから「b」とした。

中項目評価 a . (b) . c

※中項目評価が、「a」、「a」、「b」であることから大項目評価は「A」とした。

評 価 AA . (A) . B . C

コスト削減対策及び代替案立案の可能性

(1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性

- ・河道掘削によって発生した残土については、付近の近内地区土地区画整理事業との事業調整を図り、盛土などへ活用することにより運搬費を軽減するなどのコスト削減を図っている。
- ・川底の洗掘を防止するための工法を見直したことにより、コスト削減を図る。

C=44百万円（残土削減による削減額 約30百万円、落差工見直しによる削減額 約14百万円）

(2) 代替案立案の可能性

①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果
遊水地・ダム建設、放水路等との組み合わせによる手法が考えられるが、流域の地形、土地利用状況、社会的・自然的影響を総合的に勘案し、河川改修による治水対策が妥当と判断した。

②今後における代替案立案の可能性
現時点で予想される技術革新や社会情勢の大きな変化はないことから、代替案立案の可能性はない。

(1) 総合評価

総合評価 (対応方針案)	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">事業継続</div> ・ 要 検 討 (事業継続、見直し継続、休止、中止)	中 止
-----------------	---	-----

(事業名) 総合流域防災事業 (河川) 閉伊川

着手年度	完了予定年度	事業費 (百万円)	投資 事業費 (百万円)	進捗率 (%)		(1) 事業進捗状況			(2) 社会経済情勢			参 考	
						進捗状況	計画変更		社会経済	評価指数	自然環境	評点	B/C
S39	H37	5,730.0	3,754.0	65.5	AA	a	a	A	a	a	b	92	52.5

○総合評価に係るコメント

近内川は、災害復旧などにより部分的に護岸が整備されていたものの、河道の流下能力が低く、大雨の際家屋や農地等の浸水被害が発生していた。

このような状況下で、近年沿川において区画整理により市街化が進んでいることから、近内川の上流部の改修を進め、浸水被害の軽減を図る必要がある。

また、山口川においても宮古市街地において断面が狭小な区間があることから、橋梁部の架け替えなどを進める必要がある。

- ・「事業の進捗状況等」については、「工事の遅延」や「事業計画の変更」がないこと、「社会経済情勢等の変化」については、「事業に関する社会経済情勢」、「評価指標」、「自然環境等の状況」に大きな変化がないことから、大項目の評価は「AA」及び「A」であることから、総合評価を「事業継続」とした。
- ・なお、評価基準年以降の総費用、総便益により算出したB/C（残事業B/C）は75.8となる。

(2) 要検討、中止の場合の対応

総合評価

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断図等を添付のこと。

大規模公共事業 再評価調書 (付表)

事業名	総合流域防災事業 (河川)		補助・単独	担当部課名	県土整備部河川課
路線名等	二級河川閉伊川水系 ^{へいがわ} 閉伊川	地区名	—	市町村	宮古市
<p>1 現在までの事業の経緯等</p> <p>昭和39年度 国庫補助による事業採択 平成13年度 いわたの川づくりプラン懇談会 平成13年度 第1回閉伊川水系流域懇談会 平成17年度 二級河川閉伊川水系河川整備基本方針策定(H17.8.19) 平成17年度 二級河川閉伊川河川整備計画策定(H18.3.31) 平成19年度 二級河川近内川筋河川改修工事説明会</p> <p>2 事業を取り巻く社会経済情勢等の変化の具体的説明</p> <p>近年の社会経済情勢から、治水対策事業予算は国、県とも縮減されてきているが、閉伊川支川の近内川では宮古市土地区画整理事業により市街化が進んでおり、地元から治水事業に対する強い促進要望が出されている。</p> <p>東日本大震災津波以降、安全な津波浸水区域外に宅地を求める市民が増加しており、近内川沿川の区画整理事業においても、宅地の需要が増加していることから、当事業を着実に推進し、安全で安心な地域づくりを進めることが必要である。</p> <p>(近年の浸水被害)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成11年7月12日～14日 建物被災41棟(内床下浸水23棟)、農地被災3.4ha、浸水面積12ha <p>(要望の状況) ※期日は近年のものを記載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮古市(平成28年8月22日) <p>3 住民意見の状況とこれに対する対応</p> <p>今回審議を諮る閉伊川の事業計画については、「閉伊川河川整備計画」の策定に伴い開催した次の流域懇談会の場で説明を行い、住民の方々から意見や提言をいただいている。</p> <p>閉伊川河川整備計画流域懇談会 1回(平成13年9月27日)</p> <p><主な質問内容></p> <p>1. 最近、ちょっと雨が降ってもかなり水量が増えているような気がする。工事もかなり進んでいるようだが、(近内川の河川改修が)あと何年かかるのか教えていただきたい。</p> <p>[回答]</p> <p>(近内川の河川改修について)</p> <p>1. 改修中の1km区間(全3.7kmのうち3.4kmまで)は平成20年頃までかかる見込みである。それより上流の区間は、その後に進めていくという計画になっております。</p> <p>この公聴会では、その他に維持管理等の要望もあったが、閉伊川の改修事業計画に対する反対意見等は無かった。</p>					

4 費用便益分析の詳細(算定方法、算出根拠等)

算出方法 : 別添

算出根拠 : 治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月 国土交通省河川局 (単位:百万円)

区分	事業着手時 (基準年:昭和39年度)	前回評価時 (基準年:平成23年度)	今回評価時 (基準年:平成28年度)		
				残事業B/C	
費用項目	①建設費	384	16,694	20,906	1,474
	②維持管理費	49	161	1,584	182
	③総費用(C) ①+②	432	16,855	22,491	1,656
便益項目	④被害軽減の便益	26,291	1,039,297	1,179,800	125,455
	⑤残存価値	4	18	18	6
	⑥総便益(B) ④+⑤	26,295	1,039,315	1,179,818	125,461
費用便益比(B/C) ⑥/③		60.8	61.7	52.5	75.8

①建設費:施設整備に要する費用(河川改修費)を整備期間、評価期間で現在価値化して合計したものである。基準年以前の費用は、物価変動を考慮した実質価値に換算した後に現在価値化している。

②維持管理費:毎年定常的に支出される除草等の費用で、現在価値化して計上している。

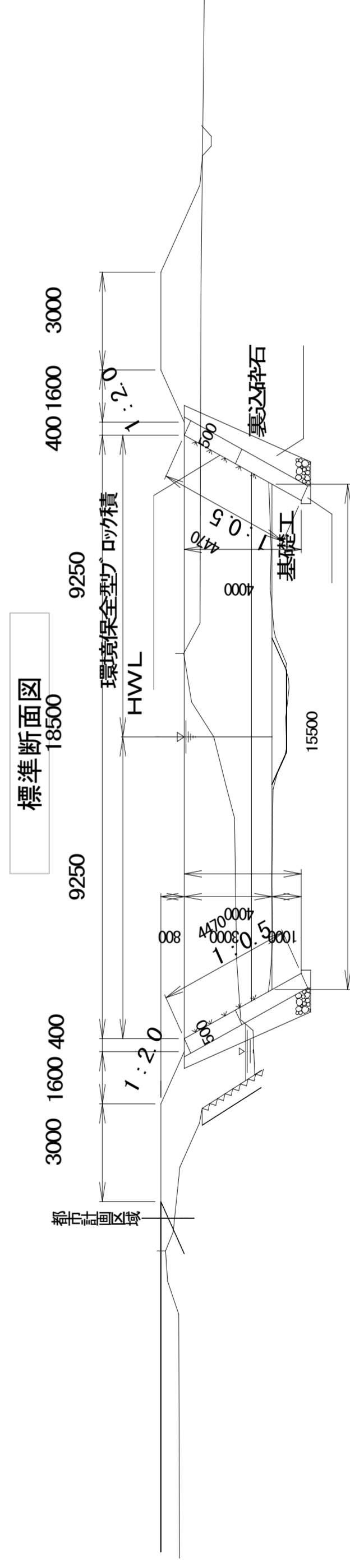
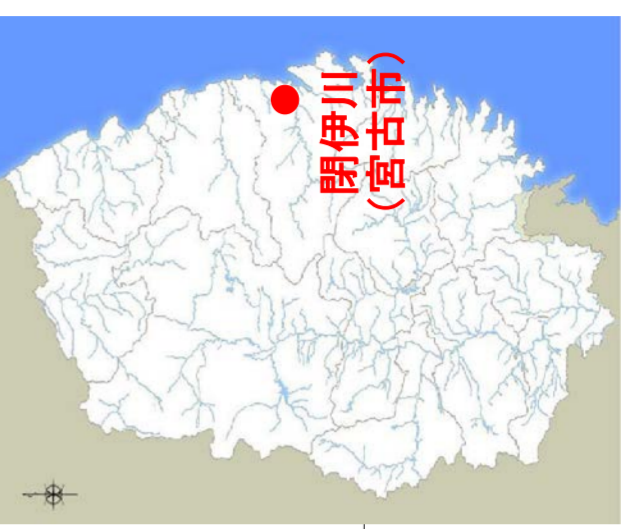
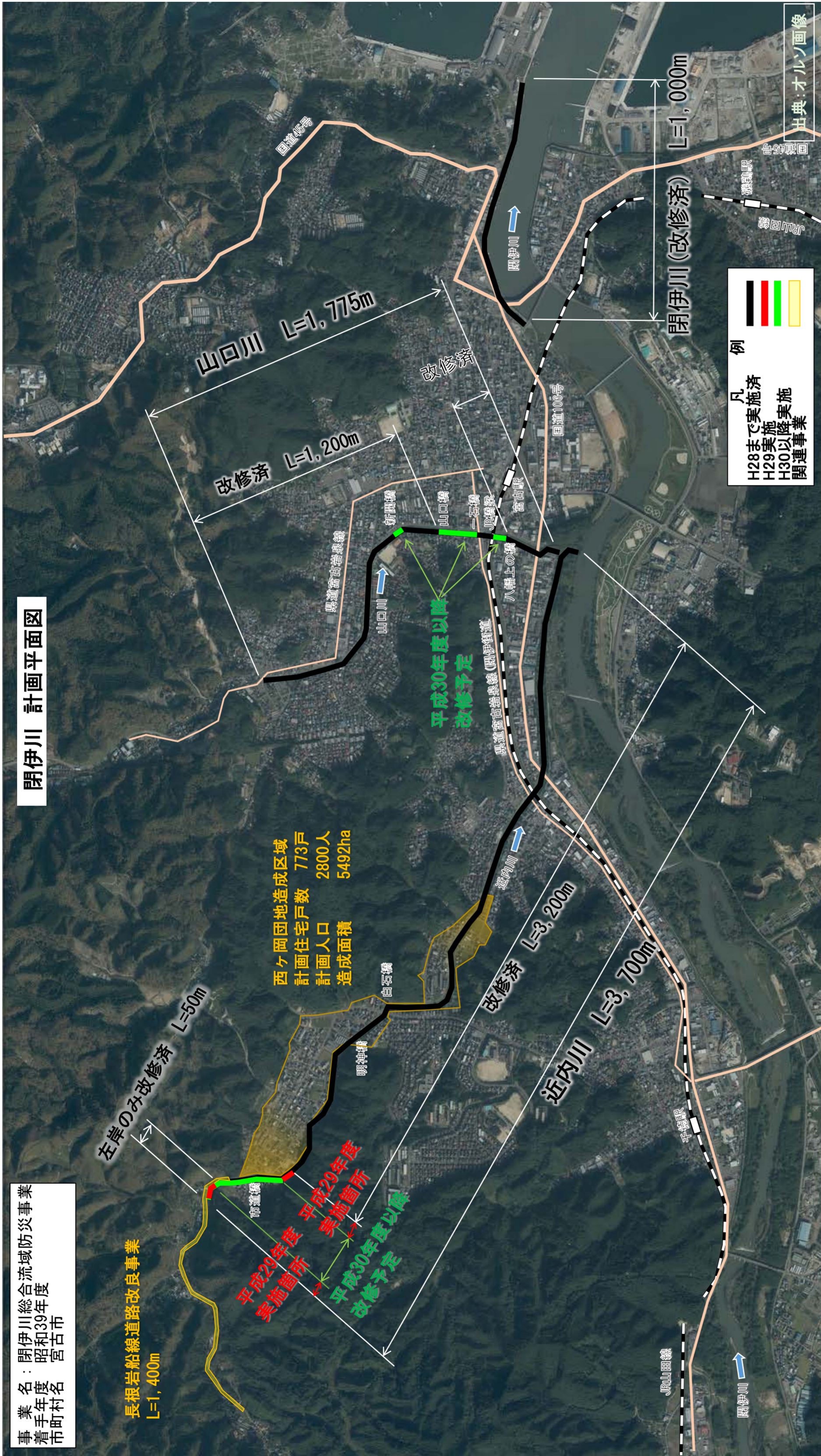
④被害軽減の便益:施設整備によって想定される年平均被害軽減額を現在価値化して合計したものである。

⑤残存価値:評価対象期間終了時点における施設等の価値。構造物は価値を10%とし、構造物以外(堤防・用地など)は減価しないものとしている。

※事業費は、消費税を控除している。

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断面図等を添付のこと。

閉伊川 計画平面図



宮古西道路地域連携道路整備事業
(ネットワーク形成型)
再評価関係資料

- 1 大規模公共事業 再評価の概要
- 2 大規模公共事業 再評価調書 等

岩手県 県土整備部

大規模公共事業再評価調書の概要

みやこにしどうろ

(宮古西道路 地域連携道路整備事業 (ネットワーク形成型))

担当部課：県土整備部 道路建設課

1 事業概要 (路線名：一般国道 106 号、所在市町村：宮古市)

○事業目的：一般国道 106 号は、県内陸部と沿岸部を結ぶ重要な幹線道路であり「岩手県地域防災計画」において「緊急輸送道路」に指定されている。また、東日本大震災津波では、避難路や物資の輸送路としての役割を担い、「岩手県東日本大震災津波復興実施計画」において「復興道路」に位置づけられている重要な路線である。一方で、**宮古市内における交通混雑が日常化していると共に、冠水による通行規制区間**があるなど、抜本的な改良を求められていた。そのため、国によりかかってないスピードで進められている宮古盛岡横断道路及び三陸沿岸道路と一体となった自動車専用道路の整備により、**交通混雑の緩和や復興加速への寄与、地域の活性化を支援**しようとするものである。

○事業内容：計画延長 L=3,400m、車道幅員 W=7.0m、全体幅員 13.5m

改良工 L=2,514.1m、橋梁工 L=486.9m (N=2 橋)、トンネル工 L=399.0m (N=2 箇所)

○事業期間：平成 15 年度～平成 30 年度 (前回評価時 平成 15 年度～平成 30 年度)

○総事業費：21,700 百万円 (前回評価時 17,700 百万円)

(平成 29 年度までの投資額 14,652.0 百万円、進捗率 67.5%)

2 事業の進捗状況等

○今回、(仮称) 田鎖トンネル (L=326m) の工事進捗に伴う補助工法の増と (仮称) 閉伊川横断橋下部工 (L=430.5m) における仮設工等の増が主な要因となり、総事業費の増が明らかとなったが、工事の進捗に影響はなく、**事業期間の延伸もないことから、計画どおりの事業の完了が見込める。**

3 社会経済情勢等の変化

○本県では、内陸部と沿岸部を結ぶ幹線道路ネットワークを始め、地域間の交流・連携の基盤となる道路など、更なる道路の整備を求められており、当該道路の整備促進については、**沿岸部市町村を中心に関係市町村等より整備促進を求める強い要望がある。**(宮古市ほか)

○また、**岩手県東日本大震災津波復興実施計画において、当該道路を復興道路と位置づけ、整備を進めている。**

○評点合計は前回評価時と同じであり、自然環境については、専門家の助言を受けながら環境等への影響が少ないよう対応して事業を進めている。

4 コスト縮減対策及び代替案

○コスト縮減対策としては、埋蔵文化財発掘調査で発生した残土を他工事に流用するなど、**約 0.6 億円のコスト縮減**を図ることとしている。

○代替案については、都市計画決定され、宮古盛岡横断道路及び三陸沿岸道路との接続位置が決まっていることから、**代替案立案の可能性はない。**

5 総合評価

○「事業の進捗状況等」については、総事業費の変更はあるものの、現在、**宮古中央インター線を供用していると共に、用地取得は完了しており、工事の遅延がなく、今後も計画に沿って事業を進めることが見込める。**

○「社会経済情勢等の変化」については、**事業に関する社会経済情勢、評価指標、自然環境等の状況に関して大きな変化は見られない。**

○以上のことから、大項目の評価が「A」、「AA」であることから、総合評価は「事業継続」とした。

事業名	地域連携道路整備事業 (ネットワーク形成型)		補助・単独	担当部課名	県土整備部道路建設課				
路線名等	一般国道106号	地区名	みやこはら 宮古西道路	市町村	宮古市				
〔事業根拠法令等： 道路法第12条、第50条〕									
事業概要	<p>(1) 事業目的</p> <p>○解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道106号は、宮古市を起点とし盛岡市に至る県内陸部と沿岸部を結ぶ重要な幹線道路であり、「岩手県地域防災計画」において「緊急輸送道路」に指定されていると共に、当該区間は平成11年度に地域高規格道路※「宮古盛岡横断道路」の整備区間に指定されている。 ・東日本大震災津波では、避難路や物資の輸送路としての役割を担ったところであり、岩手県東日本大震災津波復興実施計画において復興道路にも位置づけている重要路線である。 ・しかしながら、宮古市内における交通混雑は日常化していると共に、冠水による通行規制区間があるなど、安全で円滑な交通の支障となっている。 <p>※地域高規格道路：高規格幹線道路と一体的に機能し、地域において広域的な交流・連携を支える幹線道路ネットワークを構成する骨格的な道路。</p> <p>○整備によって得られる効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省によりかつてないスピードで進められている宮古盛岡横断道路及び三陸沿岸道路と一体となった自動車専用道路の整備により、宮古市内の交通混雑が緩和されると共に、冠水による通行規制区間の迂回ルートの確保が図られ、通行車両の安全性・快適性が向上することにより、幹線道路として安全で円滑な交通機能が確保される。 ・また、東日本大震災津波からの復興への寄与はもとより、平成30年春の開設が発表された宮古港と室蘭港を結ぶフェリー定期航路と一体となった物流の強化など、地域の活性化支援にも資する。 <p>(2) 事業内容</p> <p>全体計画延長：3,400m、車道幅員：7.0m、全体幅員：13.5m 改良延長：2,514.1m、橋梁延長：486.9m(2橋)、トンネル延長：399.0m(2箇所) ほか宮古中央インター線：600.0m</p> <p>(3) 整備目標等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通混雑の緩和、冠水による通行規制区間の解消：L=3,400m 								
	事業着手	H15年度	事業計画期	H15	～	H30	(再々評価時全体計画期間) (再評価時全体計画期間) (当初全体計画期間)	用地着手 H16年度 工事着手 H19年度	
	事業費	当初計画 総事業費 (H15年) (うち用地費)	前回 再評価時 総事業費 (H28年) (うち用地費)	今回 再評価時 総事業費 (H29年) A (うち用地費)	事業費の状況 [百万円]				進捗率 F=E/A
					H12年～ B H27年	C H28年	D H29年	投資事業費 E=B+C+D	
事業の進捗状況等	<p>(1) 事業の進捗状況</p> <p>ア 整備効果の発現状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年3月21日に、三陸沿岸道路 宮古道路の供用にあわせ「宮古中央インター線」が供用済みであり、宮古市松山～金浜間の時間短縮が図られている。 ・本線については、各インター間の整備完了後に供用予定であるため、現時点で供用区間はなく整備効果の発現はない。 <p>イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し</p> <p>○中項目評価は、事業の進捗は順調であり、計画どおり確実な竣工が見込まれるため「a」とした。</p> <p style="text-align: right;">中項目評価 (a) . b . c</p>								
	<p>(2) 事業計画の変更の有無及び内容</p> <p>○変更内容 総事業費 変更前 17,700百万 → 変更後 21,700百万</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総事業費の増は、(仮称)田鎖トンネル掘削に係る補助工法の増と閉伊川横断橋下部工における仮設工等の増が主な要因であり、工事進捗に伴い、明らかとなったもの。 <p>○中項目評価は、変更内容が事業費見直しによる総事業費の増であり、工事が手戻りになることもなく、大幅な変更ではないため「b」とした。</p> <p style="text-align: right;">中項目評価 a . (b) . c</p>								
	<p>○中項目評価が「a」、「b」であることから、大項目評価を「A」とした。</p>								
	評価	AA・(A)・BB・B・C							

社会 経 済 情 勢 等 の 変 化	(1) 事業に関する社会経済情勢						
	ア 全国の状況						
	<ul style="list-style-type: none"> 激甚化する気象災害や切迫する巨大地震等に備えるための防災・減災対策、高度成長期以降に整備されたインフラの老朽化対策、個性豊かな活力ある地域の形成や成長戦略の具体化による「強い経済」の実現が強く求められており、国は、「東日本大震災からの復興加速」、「国民の安全・安心の確保」、「豊かで利便性の高い地域社会の実現」及び「日本経済の再生」の4分野に重点化し、施策効果の早期発現を図ることとしている。 						
	イ 本県内の状況						
	<ul style="list-style-type: none"> 「いわて県民計画」においては、産業を支える社会資本の整備や安全で安心な暮らしを支える社会資本の整備を重点的な政策の柱として掲げており、この中で道路整備は、地域産業の競争力の向上を目指し、工業製品や農林水産物等の物流の円滑化を図る幹線道路ネットワークを構築することや、地域間の交流・連携の基盤となる広域振興圏相互や隣接県を結ぶ道路の整備を推進するとともに、通院・通学などの日常生活を支える道づくりを進めることとしている。 ・岩手県東日本大震災津波復興計画 復興実施計画において、災害に強い交通ネットワークの構築として、地域高規格道路「宮古盛岡横断道路」の一部区間である当該道路を含めた三陸復興道路整備事業を進めることとしている。 						
	ウ 施工地域における状況						
	<ul style="list-style-type: none"> ・当該道路の整備促進について、関係市町村等より強い要望がある。（宮古市ほか） 						
	○中項目評価は、全国又は本県において、政策や事業のあり方についての議論や見直しの大きな変化が見られないことから、「a」とした。						
	中項目評価 a . b . c						
	(2) 事業に関する評価指標の推移						
	評価指標	配点	事業着手時 評点 (H14)	前回再評価時 評点(A) (H28)	今回再評価時 評点(B) (H29)	増減 (B)-(A)	備考
必要性	車道等幅員	5	5 (現況5.5m)	5 (現況5.5m)	5 (現況5.5m)	0	
	曲線半径	5	3 (現況140m)	3 (現況140m)	3 (現況140m)	0	
	縦断勾配	5	0 (現況3.7%)	0 (現況3.7%)	0 (現況3.7%)	0	
	歩道設置の必要性	3	0 (不要)	0 (不要)	0 (不要)	0	
	混雑度	2	2 (1.70)	2 (1.42)	2 (1.42)	0	
	定時性	2	1 (8.3Km/h)	0 (4.4Km/h)	0 (4.4Km/h)	0	
	事故率	3	1 (履歴有)	1 (履歴有)	1 (履歴有)	0	※1
	過疎地域等の振興	5	0 (該当外)	3 (過疎)	3 (過疎)	0	
	計	30	12	14	14	0	
重要性	ネットワークの位置 付け	15	15 (地域高規格道路)	15 (地域高規格道路)	15 (地域高規格道路)	0	
	産業振興、生活支援	15	15 (7項目該当)	15 (7項目該当)	15 (7項目該当)	0	※2
	計	30	30	30	30	0	
緊急性	関連事業の有無	5	5 (あり)	5 (あり)	5 (あり)	0	※3
	冠水対策、主要渋滞 ポイント、老朽橋、 通行危険箇所等	5	5 (あり)	5 (あり)	5 (あり)	0	冠水区間
	10Km以内に迂回道路	5	0 (あり)	0 (あり)	0 (あり)	0	
	計	15	10	10	10	0	
効率性	費用便益比(B/C)	20	18 (2.5)	18 (1.9)	18 (1.6)	0	
熟度	用地取得の進捗状況	3	2 (約50%)	3 (100%)	3 (100%)	0	
	地元要望	2	2 (あり)	2 (あり)	2 (あり)	0	
	計	5	4	5	5	0	
計		100	74	77	77	0	(再々評価時/再評価時) 100%
※1 : 履歴有（前回再評価時：44.7件/億台キロ、今回再評価時：13.8件/億台キロ） ※2 : 物流支援・農業支援・林業支援・製造業支援・観光支援・公共施設アクセス・交通拠点アクセス ※3 : 宮古盛岡横断道路・三陸沿岸道路							

○ 費用便益分析

費用便益分析手法:費用便益分析マニュアル(平成20年11月)

道路投資の評価に関する指針(案)第1編(平成10年6月)、第2編(平成11年11月)(単位:百万円)

区 分		事業着手時 (基準年: H14)	前回再評価時 (基準年: H28)	今回再評価時 (基準年: H29)
費用項目	改築費	11,125.0	17,612.8	21,877.1
	維持費	406.0	873.9	955.2
	総費用(C)	11,531.0	18,486.7	22,832.3
便益項目	時間短縮便益	21,203.0	26,092.0	27,103.0
	走行経費減少便益	1,444.0	4,210.0	4,374.0
	事故減少便益	1,087.0	1,747.0	1,815.0
	3便益 ①	23,734.0	32,049.0	33,292.0
	環境改善便益	-5.0	565.9	587.9
	拡張便益	4,680.0	2,306.3	2,395.7
	その他便益 ②	4,675.0	2,872.2	2,983.6
	小計(①+②)	28,409.0	34,921.2	36,275.6
	修正便益 ③	0.0	21,476.6	22,309.5
	総便益 ①+②+③	28,409.0	56,397.8	58,585.1
費用便益比(B/C) $B(①+②)*C$		2.5	1.9	1.6
〔参考〕修正費用便益比 $B(①+②+③)*C$		2.5	3.1	2.6

参考 将来交通量 11,900台/日(H32) 9,100台/日(H42) 9,100台/日(H42)

※費用便益分析において地域特性等考慮すべき特記事項

・総合評価では、効率性の他、地域格差(公平性)を加味した修正費用便益比(修正B/C)についても考慮する。

○ 関連する開発プロジェクト等の状況

- ・宮古盛岡横断道路 宮古西道路〔国施工区間〕(国土交通省: H23~H32)
- ・三陸沿岸道路 宮古道路(国土交通省: H22.3.21開通)、宮古田老道路(国土交通省: H23~H32) 等

○各評価指標の評点の合計が、前回評価時の90%以上であることから、中項目評価を「a」とした。

中項目評価 (a) . b . c

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・岩手県自然環境保全指針による保全区分 B D
- ・希少野生動植物生息の有無 あり
- ・埋蔵文化財包蔵地の有無 あり

岩手県教育委員会との協議及び現地調査を実施しながら事業を進めている。

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

- ・振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況 付議している
- ・平成14年度の都市計画決定に際し、岩手県環境影響評価条例に基づき環境影響評価を実施。
- ・専門家からの指導と助言のもと環境調査等を実施し、環境等への影響が少なくなるよう配慮しながら事業を進めている。

①主な助言内容

- ・哺乳類については、侵入防止柵によって横断可能な構造物に誘導することにより、通行車両との衝突を回避すること。
- ・猛禽類及び希少な昆虫類については、営巣確認及び生息確認調査を実施し、専門家の意見のもとに環境保全措置を講ずること。
- ・希少な植物については、生育適地に移植を試みることに。

②対応状況

- ・専門家の助言を受けながら、希少種の移植やモニタリング調査等を実施。
- ・動物と通行車両の衝突回避のため、道路への立入防止柵を設置。
- ・橋梁及びトンネル計画により、地形改変を極力少なくするような道路を計画。
- ・工事における騒音・振動の軽減措置。

《環境等への配慮に要する経費》

- ・環境調査等(約250百万円)、立入防止柵(約37百万円)、切土・盛土の植生緑化(約61百万円)

合計 約348百万円

○中項目評価は、自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全区分に沿って積極的な対応をしていることから「a」とした。

中項目評価 (a) . b . c

○中項目評価が「a」、「a」、「a」であることから、大項目評価を「AA」とした。

評 価 (AA) . A . B . C

社
会
経
済
情
勢
等
の
変
化

コスト削減対策及び代替案立案の可能性	(1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性	<ul style="list-style-type: none"> 埋蔵文化財発掘調査の発生残土を他工事（圃場整備事業）へ流用してコスト削減 約40百万円 濁水処理により発生する無機質汚泥を盛土材に使用して運搬費をコスト削減 約20百万円 合計 約60百万円
	(2) 代替案立案の可能性	<p>①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画ルートについては、都市計画決定されていることから、現計画（閉伊川右岸ルート）が適当であると判断している。 橋梁形式は、比較検討結果をもとに選定をしている。 <p>②今後における代替案立案の可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> 国により整備が進められている宮古盛岡横断道路及び三陸沿岸道路との接続位置が決まっていることから、代替案立案の可能性はない。

総合評価	(1) 総合評価	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 20%;">対応方針案</td> <td colspan="11"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">事業継続</div> ・ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">要検討</div> ・ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">中止</div> </div> <p style="font-size: small;">（事業継続、見直し継続、休止、中止）</p> </td> </tr> </table> <p>（事業名）地域連携道路整備事業（ネットワーク形成型） 宮古西道路</p>													対応方針案	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">事業継続</div> ・ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">要検討</div> ・ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">中止</div> </div> <p style="font-size: small;">（事業継続、見直し継続、休止、中止）</p>										
	対応方針案	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">事業継続</div> ・ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">要検討</div> ・ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">中止</div> </div> <p style="font-size: small;">（事業継続、見直し継続、休止、中止）</p>																								
	着手年度	完了予定年度	事業費 (百万円)	投資事業費 (百万円)	進捗率 (%)	(1) 事業進捗状況		(2) 社会経済情勢			参考															
						進捗状況	計画変更	社会経済	評価指標	自然環境	評点	B/C														
15	30	21,700	14,652.0	67.5%	A	a	b	AA	a	a	a	77	1.6 <small>(修正B/C=2.6)</small>													
	<p>○総合評価に係るコメント</p> <p>①再評価の総括</p> <ul style="list-style-type: none"> 「事業の進捗状況等」については、総事業費の変更はあるものの、現在、宮古中央インター線が供用していると共に、用地取得は完了しており、工事の遅延がなく、今後も計画に沿って事業を進めることが見込める。 「社会経済情勢等の変化」については、事業に関する社会経済情勢、評価指標、自然環境等の状況に関して特に大きな変化は見られない。 以上のことから「事業継続」と評価したものである。 <p>②特記事項</p> <p>評価基準年以降の総費用、総便益により算出した残事業B/Cは5.0（修正残事業B/C=8.1）である。</p>																									

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断面図等を添付のこと。

事業名	地域連携道路整備事業 (ネットワーク形成型)		補助	単独	担当部課名	県土整備部道路建設課
路線名等	一般国道106号	地区名	みやこに ^ほ どろ 宮古西道路		市町村	宮古市

- 1 現在までの事業の経緯等
 平成6年12月 地域高規格道路「宮古盛岡横断道路」が、計画路線に指定。
 平成11年12月 「宮古盛岡横断道路」の一部を構成する「宮古西道路」が、整備区間に指定。
 平成12年度 着工準備期間として調査着手。
 平成15年度 国庫補助事業により事業着手。
 平成21年度 三陸沿岸道路宮古道路とあわせ「宮古中央インター線」が供用済み。(平成22年3月21日)

- 2 事業を取り巻く社会経済情勢等の変化の具体的説明
 当該国道の整備については、沿岸市町村を中心に整備促進を求める要望が多い。
 (最近の要望状況)
 ○宮古市(平成28年8月22日)
 ○平成28年台風第10号豪雨災害復旧・復興期成同盟会(平成28年12月27日)

3 費用便益分析の詳細(算定方法、算出根拠等)

費用便益分析手法:費用便益分析マニュアル(平成20年11月)、道路投資の評価に関する指針(案)第1編(平成10年6月)、第2編(平成11年11月)

区 分		事業着手時 (基準年:H14)	前回再評価時 (基準年:H28)	今回再評価時 (基準年:H29)	
					残事業B/C
費用項目	改築費	11,125.0	17,612.8	21,877.1	6274.8
	維持費	406.0	873.9	955.2	955.2
	総費用(C)	11,531.0	18,486.7	22,832.3	7,230.0
便益項目	時間短縮便益	21,203.0	26,092.0	27,103.0	27,103.0
	走行経費減少便益	1,444.0	4,210.0	4,374.0	4,374.0
	事故減少便益	1,087.0	1,747.0	1,815.0	1,815.0
	3便益 ①	23,734.0	32,049.0	33,292.0	33,292.0
	環境改善便益	-5.0	565.9	587.9	587.9
	拡張便益	4,680.0	2,306.3	2,395.7	2,395.7
	その他便益 ②	4,675.0	2,872.2	2,983.6	2,983.6
	小計(①+②)	28,409.0	34,921.2	36,275.6	36,275.6
	修正便益 ③	0.0	21,476.6	22,309.5	22,309.5
	総便益 ①+②+③	28,409.0	56,397.8	58,585.1	58,585.1
費用便益比(B/C)	B(①+②)*C	2.5	1.9	1.6	5.0
(参考)修正費用便益比	B(①+②)+③	2.5	3.1	2.6	8.1

参考 将来交通量 11,900台/日(H32) 9,100台/日(H42) 9,100台/日(H42)

- (1)改築費:道路建設に要する費用を基準年において現在価値化したもの。
 (2)維持費:道路の供用開始後50年間における維持管理費を基準年において現在価値化したもの。
 (3)時間短縮便益:道路の供用開始後50年間における自動車に乗りたくないならば、生産活動を行うことによって産み出されるであろう価値(資源価値)、または自動車に乗り続けている時間を、他の目的に使用できるなら支払ってもよいと思う金額(行動価値)を、基準年において現在価値化したもの。
 (4)走行経費減少便益:道路の供用開始後50年間における燃料費、オイル費、タイヤ・チューブ費等の減少効果を、基準年において現在価値化したもの。
 (5)事故減少便益:道路の供用開始後50年間における人身事故、物損事故、救急や事故処理などに伴う公的損害、及び事故により発生する交通渋滞による損失の減少効果を、基準年において現在価値化したもの。
 (6)環境改善便益:道路の供用開始後50年間における大気汚染、騒音及び地球温暖化の道路整備による環境改善効果を、基準年において現在価値化したもの。
 (7)拡張便益:道路の供用開始後50年間における道路走行時の快適性、救急医療や消防等へのアクセス確保による緊急時に対する安心感などの効果を、基準年において現在価値化したもの。
 (8)修正便益:所得水準や物価基準といった地域間格差を考慮し、東京を基準(1.0)とした各地域別の地域修正係数を乗じたもの。

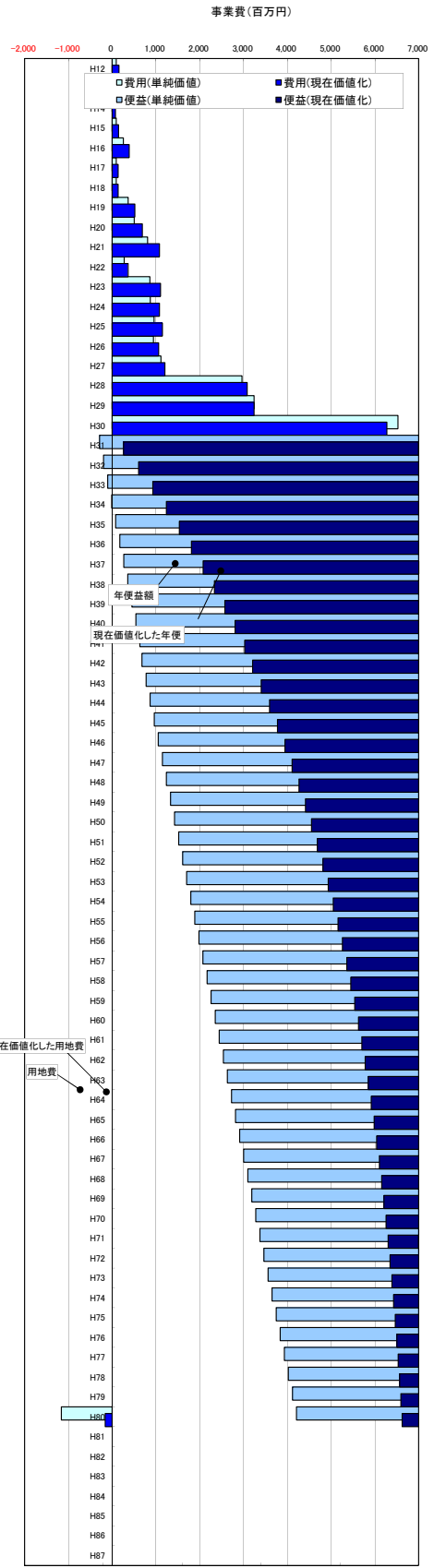
4 環境対策の具体的内容

- 専門家による指導と助言のもと、環境等への影響が少なくなるよう配慮しながら事業を進めている。
 ○主な対応
 ・希少野生植物の移植。
 ・希少野生動植物のモニタリング調査。
 ・地形改変が極力最小限となるように、一部構造物(トンネル・橋梁)で道路計画。
 ・排ガス対策及び低騒音型建設機械の使用を基本とする。

費用対効果計算書【全体B/C】

48

路線名: 106号		地区名: 宮古西道路				単位: 百万円				
年度 用途 年次 の 順	年次	現在価値 割引率	GDP デフレーター	費用				便益		
				建設費		維持管理費		便益額	現在価値	
				費用	現在価値	費用	現在価値			
-19	H12	1.94790	107.2	93	157.7	0	0.0	0.0	0.0	
-18	H13	1.87298	105.7	93	153.8	0	0.0	0.0	0.0	
-17	H14	1.80094	103.8	47	76.1	0	0.0	0.0	0.0	
-16	H15	1.73168	102.3	92	145.3	0	0.0	0.0	0.0	
-15	H16	1.66507	101.0	254	390.7	0	0.0	0.0	0.0	
-14	H17	1.60103	99.6	90	135.0	0	0.0	0.0	0.0	
-13	H18	1.53945	98.7	91	132.4	0	0.0	0.0	0.0	
-12	H19	1.48024	97.6	365	516.5	0	0.0	0.0	0.0	
-11	H20	1.42331	96.8	503	690.0	0	0.0	0.0	0.0	
-10	H21	1.36857	95.6	810	1,081.9	0	0.0	0.0	0.0	
-9	H22	1.31593	93.7	274	359.0	0	0.0	0.0	0.0	
-8	H23	1.26532	92.1	860	1,102.4	0	0.0	0.0	0.0	
-7	H24	1.21665	91.3	869	1,080.4	0	0.0	0.0	0.0	
-6	H25	1.16986	91.1	956	1,145.4	0	0.0	0.0	0.0	
-5	H26	1.12486	93.3	945	1,063.0	0	0.0	0.0	0.0	
-4	H27	1.08160	93.3	1,116	1,207.1	0	0.0	0.0	0.0	
-3	H28	1.04000	93.3	2,963	3,081.5	0	0.0	0.0	0.0	
-2	H29	1.00000	93.3	3,241	3,241.0	0	0.0	0.0	0.0	
-1	H30	0.96154	93.3	6,526	6,275.0	0	0.0	0.0	0.0	
0	H31	0.92456	93.3	0	0.0	46.24	42.8	2024.3	1871.6	
1	H32	0.88900	93.3	0	0.0	46.24	41.1	1998.7	1776.8	
2	H33	0.85480	93.3	0	0.0	46.24	39.5	1973.1	1686.6	
3	H34	0.82193	93.3	0	0.0	46.24	38.0	1947.5	1600.7	
4	H35	0.79031	93.3	0	0.0	46.24	36.5	1921.9	1518.9	
5	H36	0.75992	93.3	0	0.0	46.24	35.1	1896.3	1441.0	
6	H37	0.73069	93.3	0	0.0	46.24	33.8	1870.7	1366.9	
7	H38	0.70259	93.3	0	0.0	46.24	32.5	1845.1	1296.3	
8	H39	0.67556	93.3	0	0.0	46.24	31.2	1819.5	1229.2	
9	H40	0.64958	93.3	0	0.0	46.24	30.0	1793.9	1165.3	
10	H41	0.62460	93.3	0	0.0	46.24	28.9	1768.3	1104.5	
11	H42	0.60057	93.3	0	0.0	46.24	27.8	1755.0	1054.0	
12	H43	0.57748	93.3	0	0.0	46.24	26.7	1729.2	998.6	
13	H44	0.55526	93.3	0	0.0	46.24	25.7	1703.4	945.8	
14	H45	0.53391	93.3	0	0.0	46.24	24.7	1677.7	895.7	
15	H46	0.51337	93.3	0	0.0	46.24	23.7	1651.9	848.0	
16	H47	0.49363	93.3	0	0.0	46.24	22.8	1626.1	802.7	
17	H48	0.47464	93.3	0	0.0	46.24	21.9	1600.3	759.6	
18	H49	0.45639	93.3	0	0.0	46.24	21.1	1574.5	718.6	
19	H50	0.43883	93.3	0	0.0	46.24	20.3	1548.7	679.6	
20	H51	0.42196	93.3	0	0.0	46.24	19.5	1523.0	642.6	
21	H52	0.40573	93.3	0	0.0	46.24	18.8	1497.2	607.5	
22	H53	0.39012	93.3	0	0.0	46.24	18.0	1471.4	574.0	
23	H54	0.37512	93.3	0	0.0	46.24	17.3	1445.6	542.3	
24	H55	0.36069	93.3	0	0.0	46.24	16.7	1419.8	512.1	
25	H56	0.34682	93.3	0	0.0	46.24	16.0	1394.0	483.5	
26	H57	0.33348	93.3	0	0.0	46.24	15.4	1368.3	456.3	
27	H58	0.32065	93.3	0	0.0	46.24	14.8	1342.5	430.5	
28	H59	0.30832	93.3	0	0.0	46.24	14.3	1316.7	406.0	
29	H60	0.29646	93.3	0	0.0	46.24	13.7	1290.9	382.7	
30	H61	0.28506	93.3	0	0.0	46.24	13.2	1265.1	360.6	
31	H62	0.27409	93.3	0	0.0	46.24	12.7	1239.3	339.7	
32	H63	0.26355	93.3	0	0.0	46.24	12.2	1213.6	319.8	
33	H64	0.25342	93.3	0	0.0	46.24	11.7	1187.8	301.0	
34	H65	0.24367	93.3	0	0.0	46.24	11.3	1162.0	283.1	
35	H66	0.23430	93.3	0	0.0	46.24	10.8	1136.2	266.2	
36	H67	0.22529	93.3	0	0.0	46.24	10.4	1110.4	250.2	
37	H68	0.21662	93.3	0	0.0	46.24	10.0	1084.6	234.9	
38	H69	0.20829	93.3	0	0.0	46.24	9.6	1058.9	220.6	
39	H70	0.20028	93.3	0	0.0	46.24	9.3	1033.1	206.9	
40	H71	0.19257	93.3	0	0.0	46.24	8.9	1007.3	194.0	
41	H72	0.18517	93.3	0	0.0	46.24	8.6	981.5	181.7	
42	H73	0.17805	93.3	0	0.0	46.24	8.2	955.7	170.2	
43	H74	0.17120	93.3	0	0.0	46.24	7.9	929.9	159.2	
44	H75	0.16461	93.3	0	0.0	46.24	7.6	904.2	148.8	
45	H76	0.15828	93.3	0	0.0	46.24	7.3	878.4	139.0	
46	H77	0.15219	93.3	0	0.0	46.24	7.0	852.6	129.8	
47	H78	0.14634	93.3	0	0.0	46.24	6.8	826.8	121.0	
48	H79	0.14071	93.3	0	0.0	46.24	6.5	801.0	112.7	
49	H80	0.13530	93.3	-1,159	-156.9	46.24	6.3	775.3	104.9	
50	H81	0.13010	93.3	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
51	H82	0.12509	93.3	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
52	H83	0.12028	93.3	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
53	H84	0.11566	93.3	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
54	H85	0.11121	93.3	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
55	H86	0.10693	93.3	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
56	H87	0.10282	93.3	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
				19,029	21,877	2,312	955	70,199	33,292	①
								拡張便益	2,984	②
								総便益	36,276	①+②
								(参考) 修正便益	22,310	③

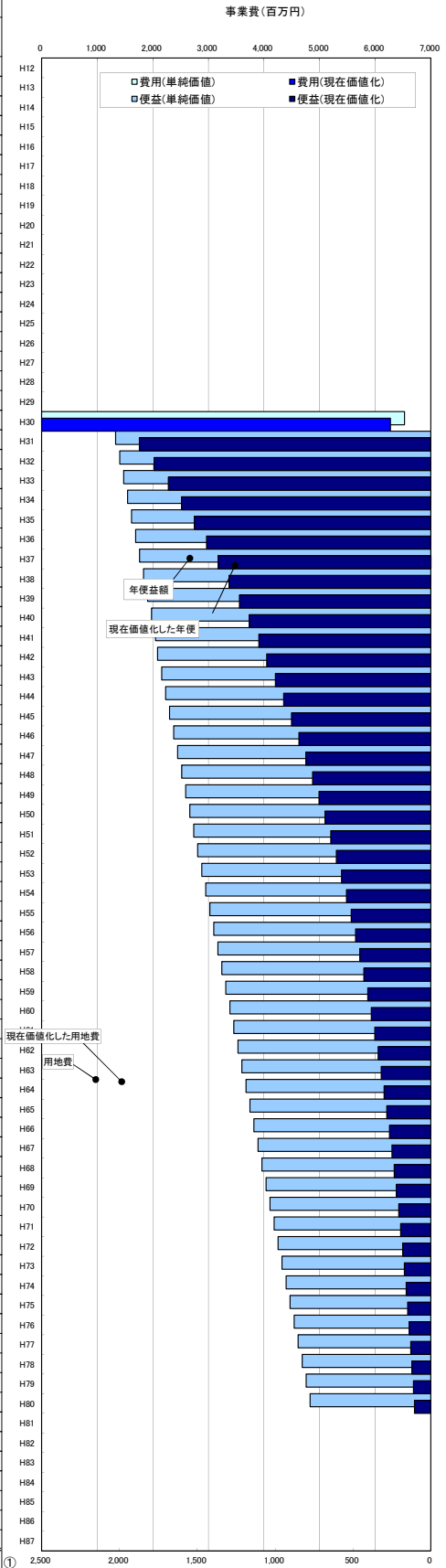


総便益B(①+②) 36,276 百万円
 総事業費C 22,832 百万円

B/C= 1.6

(参考) 修正費用便益比
 修正B/C=(①+②+③)/C= 2.6

路線名: 106号		地区名: 宮古西道路				単位: 百万円				
年度 (事業 年度との 一致)	年次	現在価値 割引率	GDP デフレーター	費用				便益		
				建設費		維持管理費		便益額	現在価値	
				費用	現在価値	費用	現在価値			
-19	H12	1.94790	107.2	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
-18	H13	1.87298	105.7	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
-17	H14	1.80094	103.8	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
-16	H15	1.73168	102.3	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
-15	H16	1.66507	101.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
-14	H17	1.60103	99.6	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
-13	H18	1.53945	98.7	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
-12	H19	1.48024	97.6	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
-11	H20	1.42331	96.8	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
-10	H21	1.36857	95.6	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
-9	H22	1.31593	93.7	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
-8	H23	1.26532	92.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
-7	H24	1.21665	91.3	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
-6	H25	1.16986	91.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
-5	H26	1.12486	93.3	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
-4	H27	1.08160	93.3	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
-3	H28	1.04000	93.3	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
-2	H29	1.00000	93.3	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
-1	H30	0.96154	93.3	6,526	6,275.0	0	0.0	0.0	0.0	
0	H31	0.92456	93.3	0	0.0	46.24	42.8	2024.3	1871.6	
1	H32	0.88900	93.3	0	0.0	46.24	41.1	1998.7	1776.8	
2	H33	0.85480	93.3	0	0.0	46.24	39.5	1973.1	1686.6	
3	H34	0.82193	93.3	0	0.0	46.24	38.0	1947.5	1600.7	
4	H35	0.79031	93.3	0	0.0	46.24	36.5	1921.9	1518.9	
5	H36	0.75992	93.3	0	0.0	46.24	35.1	1896.3	1441.0	
6	H37	0.73069	93.3	0	0.0	46.24	33.8	1870.7	1366.9	
7	H38	0.70259	93.3	0	0.0	46.24	32.5	1845.1	1296.3	
8	H39	0.67556	93.3	0	0.0	46.24	31.2	1819.5	1229.2	
9	H40	0.64958	93.3	0	0.0	46.24	30.0	1793.9	1165.3	
10	H41	0.62460	93.3	0	0.0	46.24	28.9	1768.3	1104.5	
11	H42	0.60057	93.3	0	0.0	46.24	27.8	1755.0	1054.0	
12	H43	0.57748	93.3	0	0.0	46.24	26.7	1729.2	998.6	
13	H44	0.55526	93.3	0	0.0	46.24	25.7	1703.4	945.8	
14	H45	0.53391	93.3	0	0.0	46.24	24.7	1677.7	895.7	
15	H46	0.51337	93.3	0	0.0	46.24	23.7	1651.9	848.0	
16	H47	0.49363	93.3	0	0.0	46.24	22.8	1626.1	802.7	
17	H48	0.47464	93.3	0	0.0	46.24	21.9	1600.3	759.6	
18	H49	0.45639	93.3	0	0.0	46.24	21.1	1574.5	718.6	
19	H50	0.43883	93.3	0	0.0	46.24	20.3	1548.7	679.6	
20	H51	0.42196	93.3	0	0.0	46.24	19.5	1523.0	642.6	
21	H52	0.40573	93.3	0	0.0	46.24	18.8	1497.2	607.5	
22	H53	0.39012	93.3	0	0.0	46.24	18.0	1471.4	574.0	
23	H54	0.37512	93.3	0	0.0	46.24	17.3	1445.6	542.3	
24	H55	0.36069	93.3	0	0.0	46.24	16.7	1419.8	512.1	
25	H56	0.34682	93.3	0	0.0	46.24	16.0	1394.0	483.5	
26	H57	0.33348	93.3	0	0.0	46.24	15.4	1368.3	456.3	
27	H58	0.32065	93.3	0	0.0	46.24	14.8	1342.5	430.5	
28	H59	0.30832	93.3	0	0.0	46.24	14.3	1316.7	406.0	
29	H60	0.29646	93.3	0	0.0	46.24	13.7	1290.9	382.7	
30	H61	0.28506	93.3	0	0.0	46.24	13.2	1265.1	360.6	
31	H62	0.27409	93.3	0	0.0	46.24	12.7	1239.3	339.7	
32	H63	0.26355	93.3	0	0.0	46.24	12.2	1213.6	319.8	
33	H64	0.25342	93.3	0	0.0	46.24	11.7	1187.8	301.0	
34	H65	0.24367	93.3	0	0.0	46.24	11.3	1162.0	283.1	
35	H66	0.23430	93.3	0	0.0	46.24	10.8	1136.2	266.2	
36	H67	0.22529	93.3	0	0.0	46.24	10.4	1110.4	250.2	
37	H68	0.21662	93.3	0	0.0	46.24	10.0	1084.6	234.9	
38	H69	0.20829	93.3	0	0.0	46.24	9.6	1058.9	220.6	
39	H70	0.20028	93.3	0	0.0	46.24	9.3	1033.1	206.9	
40	H71	0.19257	93.3	0	0.0	46.24	8.9	1007.3	194.0	
41	H72	0.18517	93.3	0	0.0	46.24	8.6	981.5	181.7	
42	H73	0.17805	93.3	0	0.0	46.24	8.2	955.7	170.2	
43	H74	0.17120	93.3	0	0.0	46.24	7.9	929.9	159.2	
44	H75	0.16461	93.3	0	0.0	46.24	7.6	904.2	148.8	
45	H76	0.15828	93.3	0	0.0	46.24	7.3	878.4	139.0	
46	H77	0.15219	93.3	0	0.0	46.24	7.0	852.6	129.8	
47	H78	0.14634	93.3	0	0.0	46.24	6.8	826.8	121.0	
48	H79	0.14071	93.3	0	0.0	46.24	6.5	801.0	112.7	
49	H80	0.13530	93.3	0	0.0	46.24	6.3	775.3	104.9	
50	H81	0.13010	93.3	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
51	H82	0.12509	93.3	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
52	H83	0.12028	93.3	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
53	H84	0.11566	93.3	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
54	H85	0.11121	93.3	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
55	H86	0.10693	93.3	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
56	H87	0.10282	93.3	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	
				6,526	6,275	2,312	955	70,199	33,292	①
								拡張便益	2,984	②
								総便益	36,276	①+②
								(参考) 修正便益	22,310	③

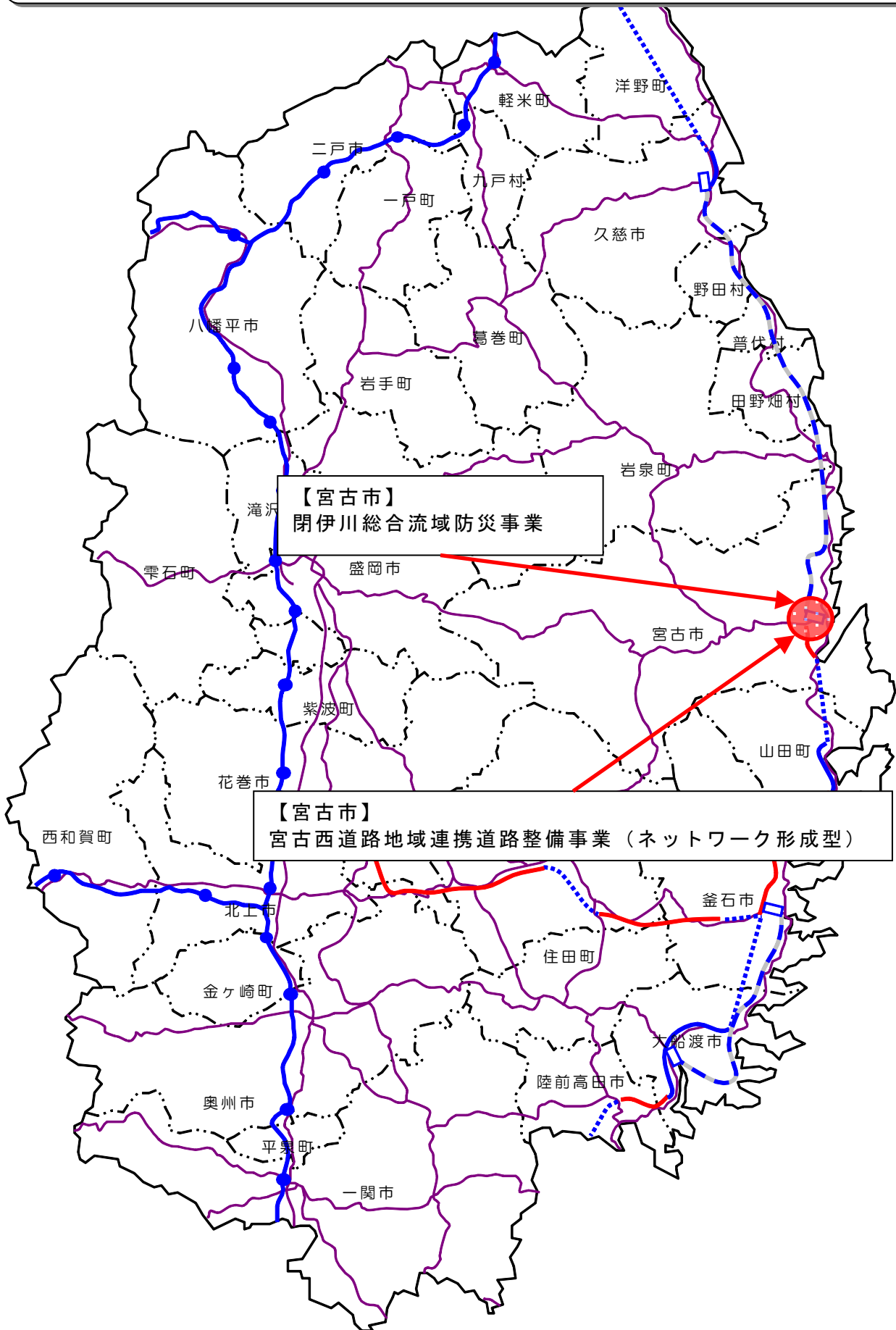


総便益B(①+②) 36,276 百万円
 総事業費C 7,230 百万円

B/C= 5.0

(参考) 修正費用便益比
 修正B/C=(①+②+③)/C= 8.1

平成 29 年度大規模事業再評価地区 位置図



○開催日:平成29年7月18日(火)
○対象案件

- ① 総合流域防災事業(閉伊川 河川課)
- ② 地域連携道路整備事業<ネットワーク形成型>(宮古西道路 道路建設課)

○行程

		0:05				1:00				1:00	
始		移動時間	着	移動時間	着	移動時間	着	移動時間	着		
	県庁	0:15		2:15		0:10		一般道利用		一般道利用	
	車庫前		盛岡駅【乗車】		盛岡駅(西口バス ターミナル付近)		昼食		宮古市		
	出発				(宮古市内)				現地調査		
発	9:15		発	9:35		発	12:50		発	14:00	
		0:40				0:05					
移動時間	着	移動時間	着	移動時間	着	移動時間	着				
0:10		2:15		0:15							
	宮古市		盛岡駅【下車】		盛岡駅(西口バス ターミナル付近)	県庁					
一般道利用	現地調査	一般道利用	宮古西道路	一般道利用	帰庁						
	発		発		終						
	14:50		17:10								

◎時間は現時点での目安であり、交通状況等により変更になる場合があります。